

平成 29 年度

地域力応援基金助成事業 活動報告書



地域力推進課

区民協働・生涯学習担当

平成 29 年度実施 地域力応援基金助成事業活動報告書 もくじ

スタートアップ助成

.....3

■新規

団体名	事業名
嶺町子ども食堂 みんなでごはん	子ども食堂
CONNECT	防災サロン もしも…その時
コミュニティ・カフェ「遊とぴあ」	高齢者の居場所づくり事業
特定非営利活動法人都会で炭焼きプロジェクト	公園の剪定廃材を使った炭の生産と有効活用の試み
非営利公益団体 久が原落語友の会	定期落語会「くがらく」の開催
NPO 法人 打楽器コンサートグループ・あしあと	こころに響く絵本つくっちゃお♪
オレンジ茶房「縁(えにし)」	オレンジ茶房「縁(えにし)」
おおた まちと子育て はぐ組	出産後早期に孤立しない・孤立させない育児の啓発事業

■継続（平成 28 年度より実施）

団体名	事業名
うのき水辺の楽校協議会	多摩川の自然と遊ぼう！自然から学ぼう！
おおた地域包括ケアシステムをすすめる会	大田区版！ささえあいの地域づくり
おおた生涯学習世話人会	地域おしゃべり講座(地域出前)事業
大田区外国語ボランティアガイドグループ	大田区来訪外国人対応ボランティアガイド

ステップアップ助成

……15

■新規

団体名	事業名
一般社団法人木谷ウォーキング研究所	高齢者の介護予防・仲間づくりのためのポール de ウォーク学校の全区的展開
英会話同好会 from OTA	ネットワーク型おもてなしプロジェクト
おおもり・まちづくり協議会	地域ボランティア隊の創設

■継続（平成28年度より実施）

団体名	事業名
昭和のくらし博物館	まちごと体験ミュージアム
おおもり子育て応援隊	大森地域の子どもの居場所づくりと学習支援教室の継続&子育て家族の応援
特定非営利活動法人大森まちづくりカフェ	おおたユニバーサルワークショップ ～地域文化 de ふれあいづくり～
多摩川七福神実行委員会	多摩川七福神『縁日』を活かした地域産業とのコラボレーション
特定非営利活動法人福祉コミュニティ大田	蒲田で実践！地域包括ケアシステム。コミュニティカフェで元気に楽しく！
縁プロジェクト	「防災セミナー」「宿泊型避難所疑似体験防災研修」
大田区障害者スポーツ倶楽部	スポーツを通じて地域の多様性を創出する事業

ジャンプアップ助成

……25

■新規

団体名	事業名
特定非営利活動法人ユースコミュニティ	六郷ユースクラブ

地域力応援基金への寄付について

……26

みんなで食えるとおいしいね

事業名 **こども食堂**

助成額

10 万円

◆地域での課題

- ① 子供の貧困と共働き家庭の増加による、団らんの減少
H22 年頃小学校を卒業した自分の子供の卒業文集に「夢は正社員」と書く子がクラスに数名いたことで、貧困の子供の存在に気づきました。また共働き家庭、核家族が増加しており、親には息抜きの場、子供には団らんの場が必要とされています。
- ② 高齢者の孤食と栄養不足
事業立ち上げメンバーは旧現民生委員の有志。高齢者の栄養が偏りがちであったり、外食や中食に頼っているのを危惧していました。また孤食も問題です。
- ③ 大田区の児童虐待件数が、品川区・目黒区に比べて圧倒的に多い。

◆基金事業概要と達成した成果

【概要】

子供、保護者、高齢者が対象。温かい食事と居場所を提供しています。毎月 1 回第 4 週に開催。

【達成した成果】

子育ての息抜きになっている様子です。子沢山でゆっくり食事ができないお母さんも、赤ちゃんの面倒をスタッフが見ている間にのんびり食事をとっています。ママ友同士の交流も楽しんでもらっています。食育の面でも、「手羽元を初めて食べた。」「家では食べない野菜を食べている。」などの声をいただいています。また困難な状況にあるお子さんも来てくれました。毎回数人の高齢者も利用しています。賑やかに楽しく、しっかり栄養もとってもらっています。

◆これからの取り組み

まだまだ周知が足りず、本当に必要な家庭まで情報が届いていないと感じています。つい先日も、ひとり親家庭に食材を届ける活動をしている「グッとごはん」と協働を始めましたが、情報が隔々まで届くように、さらに協働先を探すなど努力を続けていきたいです。また、高齢者が子供と話すことは少ないです。異世代間交流のサポートをもう少し考えていきたいです。



団体名 **嶺町こども食堂みんなでごはん**

会員数 **23 人** 設立 **平成 29 年 2 月**

団体の活動目的 **【目的】子供の孤食を防ぎ、その精神的な発達に寄与する。**
 活動実績 **【実績】H29 年 2 月よりほぼ月 1 回開催 のべ 236 名利用**

知って、備えて、みんなの防災

事業名 防災サロン もしも・・・その時

助成額 28 万円

◆地域での課題

首都直下型地震における大田区内の被害想定は、火災被害数が 32,218 棟、死者数は 1,073 人、避難所生活者は 237,135 人と予想されています。

「どこでも・誰でも」が「被災地・被災者」になるという認識を忘れずに、まずは皆が参加しやすい防災サロンを企画し、防災拠点となる学校を中心に家庭・地域が「防災・減災」をキーワードに地域の活性化を即し、地域力を向上させ、地域ぐるみで災害に強い町づくりを促進します。



◆基金事業概要と達成した成果

松仙小学校や近隣自治会、町会と協力体制を作り、「防災サロン」を開催した結果

- ① 参加者のサロンの企画内容への満足度は高く災害時の食やトイレに関する知識や意識は向上してきています。
- ② CONNECT=防災という認知度がサロンを通して出来てきて、自治会や消防署との連携が円滑に進むようになってきています。更に新しい協働相手を見つけ、地域内でのつなぎ役も果たせてきています。
- ③ 「避難所体験」を通して、参加者が災害時の具体的なイメージを持ってもらう事が出来ました。

救急救命講座 (7/23, 31, 11/25)

地域の消防団と田園調布消防署にご協力をいただき、三回開催。小学生、中学生、高校生、大学生、大人と、幅広い参加がありました。

◆これからの取り組み

「どこでも・誰でも」が「被災地・被災者」になるという認識を忘れずに、まずは皆が参加しやすい防災サロンを企画し、家庭内・地域における防災意識・知識を向上させ繋がり的重要性を理解してもらいます。

乳幼児向け・高齢者向け・外国人向け・障がい者向け・防災サロンの開催、災害時の食とトイレに関する講演会開催、救急救命講習の開催、防災教育、中学生を含めた災害時避難所となる学校での宿泊体験の開催を、区内で展開していこうと考えています。



ドキドキ避難所体験 (8/5, 6)

小学校5, 6年生を対象に、学校の体育館で一泊し、擬似避難所体験を行い、防災や災害について、色々な角度から学びました。

団体名 CONNECT

会員数 7人 設立 平成 26 年 4 月

団体の活動目的
活動実績

防災・減災活動をととして、地域住民同士が繋がりを構築し、地域活動に自主的に参加し地域力を向上させ、子どもや女性、高齢者や障がい者に優しい地域づくりを目的としている。特に女子高校生達が考え出した「女子から目線の携帯トイレ」の普及活動には力を入れており、障がい者施設での生産体制も整え、調布地区を中心に今までに 9315 個普及させている。

創ろう 語ろう あなたの居場所！

事業名 高齢者の居場所づくり事業

助成額

40 万円

◆地域での課題

高齢社会が進む中、高齢者が地域で生きがいを持って活動できる場を創設し、いつまでも住み慣れた町で元気で助け合っていける地域づくりを目指します。

◆基金事業概要と達成した成果

1. 高齢者が参加意欲を持って、各々の特性を生かせる、多様なプログラムを用意し、参加を呼び掛け、月に延 130 名が参加しました。
2. 認知症予防研修や予防体操を行い、予防についての考え方等について理解を深めて頂きました。
3. 専門職による相談支援活動を行いました。
4. 医療、介護、保健、福祉の専門機関等との連携を図り、高齢者・障害者・母子等の生活課題の早期発見や予防をして、お互いが助け合い、安心安全な地域生活が続けられるような情報提供をし、専門職の相談が必要なケースは専門機関につなぎました。



紙芝居

小学生インタビュー



バザー

女性お悩み相談

日常の活動

◆これからの取り組み

1. 高齢者の「生きがいづくりや地域の仲間づくりの場を提案・提供する」等を継続します。
2. 認知症等予防講演会など専門職と連携し、情報提供・交換をし、高齢者同士が持てる特性を生かし、助け合い、語り合い、認知力低下を防いでいきます。
3. 介護や障害サービス等の情報を伝え、必要な時に各々に合ったサービスの利用法やマッチングを図り、安心して生活し続けられるよう共に考えます。
4. 高齢者でも地域に貢献できる事を実践していきます。



落語の前にいきいき体操

落語



あっそぼー

X'mas会

落語会や幼児とのコラボ、障がい者と一緒に x'mas 等開催

団体名 コミュニティカフェ遊とびあ

会員数 約 130 人/月

設立

平成 28 年 7 月

活動目的 活動実績

〈活動目的〉 高齢者や障がい者が住み慣れた町でいつまでも元気に生活出来るように、居場所を提供することを通して、生きがいづくり、仲間づくりの支援を行うとともに介護や障害等サービスの情報を提供し、予防等の普及啓発に努める。

〈活動実績〉①十数人の活動者で講座を十数種類開催。②資金確保・手作り品披露でバザー年 4 回開催。③「認知症予防講座」や「いきいき体操」、「笑いの効用、落語、スッキリ予防体操」ほか、利用者ニーズに対応したイベント開催。④年 10 回福祉専門職による「いきいきよろず相談会」の開催。⑤「在宅医療の権威ある医師による懇談会」で悩み事相談会、「認知症予防講座」開催。⑥高齢者だけでなく、「障害者や子供との連携を図る居場所」創り。10 月『あっそぼう！』保育園児とのコラボ、12 月「手をつなぐクリスマス会」では高齢者、障害者、福祉関係者、地域の方々で「ケーキ作り」や「手作り紙芝居」を披露、「クリスマスソングの合唱」など実施。⑦児童養護施設に入園・入学グッズ等の手作り品を寄贈。

都会で炭焼き できる！

事業名

公園の剪定廃材を使った炭の生産と有効活用の試み

助成額

40 万円

◆地域での課題

都会にも豊かな自然があることを発見！ この気持ちを出発点に樹木剪定廃材の循環事業を提案します。現在、大田区の公園から排出される剪定枝等の樹木廃材は有料で焼却処分されています。なんとももったいないことで、この剪定廃材をチップ化して炭を製造し、これに落ち葉を集めて作った腐葉土を混ぜることで良質の土壌改良剤をつくることができます。土壌改良材は、大田区の公園管理のなかで有効に活用していただくとともに、将来は園芸資材として市販することで収益性のある事業にすることも可能と考えます。これを、障害者就労支援施設における授産作業として行い、関係者がこれを支えることで公益性のある自然循環システムを都会の中に構築することをめざします。



◆基金事業概要と達成した成果

1. 就労支援施設への炭生産作業委託
大田福祉工場通所者のみなさんに炭を作ってもらいました。
2. 公園の池での水質浄化実験
東糀谷防災公園のピオトープ池に出来上がった炭を沈めて3か月間水質浄化の効果を計測しました。
3. 改良型炭製造装置の開発製作
簡易型減煙式炭製造装置（試作機）を使った炭生産の経験を活かして実用型の装置を開発製作しています（2月完成予定）。

炭焼き作業の現場

都市部で炭焼き作業を行うには煙が少ない装置を使う必要があります。自主開発した装置と出来上がった炭をご覧ください。

◆これからの取り組み

1. 就労支援施設への炭生産作業委託の継続
委託を継続して経験を積んでもらいその後は施設の自主生産への移行をめざします。
2. ソーラー式常設型水質浄化装置の開発
生産した炭を使う常設型水質浄化装置を作り使用後の炭を土壌改良剤として公園管理で活用する自然循環サイクルを作ります。



炭焼き作業は楽しい！

燃料として使うのも剪定廃材、短く切って装置に投入します。冬には焼き芋もついでにつくって…炭焼き、楽しいです！

団体名

特定非営利活動法人都会で炭焼きプロジェクト

会員数

20 人

設立

平成 28 年 11 月

団体の活動目的
活動実績

公園の剪定枝廃材は、これを炭に変えることで多くの価値を生み出すことができます。わたしたちは、都会のなかにも豊かな緑があることに気づき、その緑を資源として自然循環サイクルを形成することができることを、この活動によって伝えていきます。このために炭焼き装置を独自に開発し実際に炭を作る作業を始めることができました。

『くがらく』で落語を聞いて『苦が楽』に！

事業名 定期落語会『くがらく』の開催

助成額 40 万円

◆地域での課題

新旧居住者間、自治会同士での交流が少ない久が原地域では、両者がオープンに交流できる場がないということが課題になっていました。地域住民の間にも、この街の良さを次世代に受け継いでいくため、多世代間で楽しく交流ができる場が必要との想いが強くありました。

◆基金事業概要と達成した成果

地域住民の交流を促進するため、「笑い」で地域の人を呼び込み交流できる場としての地域落語会を開催しています。

毎日の辛いこと、苦しいことも笑いで「苦が楽」になって欲しいとの想いと、久が原地域に定期落語会として根付いて欲しいとの想いが団体名になっています。参加されたお客様同士の様々なご意見も伺い、課題解決への手応えを感じています。

◆これからの取り組み

地域落語会として徐々に認知されてきたと感じていますが、一番足を運んで戴きたい地域の方々にはまだまだ会の良さが伝えられていません。今後は地域に根付いた商店街、施設などと連携をとったり、自治会の祭りへの参加なども進め、久が原五自治会を巻き込んだ形の交流の軸になるような役割が果たせればと思います。



10月29日開催 第13回 柳家小太郎さんの巻

3回連続しての雨模様になってしまった今回でしたが、何と100名ものお客様で賑わいました。



第13回 会場設営、準備の様子

お客様に楽しく過ごして戴くため、毎回10人前後のボランティアスタッフが活躍します。大田区職員さんの視察も入りました。

団体名 非営利公益団体久が原落語友の会『くがらく』

会員数 15人 設立 平成29年1月

団体の活動目的
活動実績

『くがらく』は「落語を聞けば苦が楽になる」をモットーに、都心の寄席や演芸場に出向くことのできない方などに向けた地域落語会を年に数回開催しています。地域落語会という「娯楽の輪・地域の和」に加わりたいと思う人が、「思わず集まってくる場・行きたくなる場」にすることで、地域での孤立化・没コミュニケーション化解消を目指すことを活動目的としています。

こどもたちに音楽を！

事業名 **こころに響く絵本つくっちゃお♪**

助成額 **40 万円**

◆地域での課題

【おうちで子育てしているママへ！】

待機児童の増加、核家族も増え、保護者達は共通の悩みをシェアできず、コミュニティに参加する手段を知らないまま過ごしてしまっています。そこで親子で揃って共有する時間、場所で音楽の本物の力を体感！

また、絵本を通じて、絵本の題材のオリジナル楽器を親子で製作し、さらに音楽というツールで心のコミュニケーションを行い、心を外に向ける事を推進します。また、それを手助けする側の地域全体が見守る子育てのきっかけとなる一日を設けます。



迫力！打楽器コンサート

見たこともない大きい打楽器のコンサートとみんなの知ってる絵本とのコラボレーション。どんな音がするのかな？

◆基金事業概要と達成した成果

【区内 6 公演 400 名の親子へ音楽を！】

絵本の読み聞かせと音楽のコラボレーション。また絵本の中に出てくるオリジナル楽器を作り、その楽器と共に見る、聴く、触る、そして作るという項目を加え、五感に響く参加型コンサートを開催しました。

区内 6 公演全てで満員御礼キャンセル待ち状態で定員を超える 400 名の親子に音楽をお届けしました。



楽器を 作って絵本 の世界へ！

絵本に出てくる楽器を作ろう。ママと一緒に世界で一つのオリジナル打楽器、かわいくできたね！

◆これからの取り組み

【さらに多くの子供たちに音楽を！】

子育て支援施設と同じ分野の他施設への広がりを持ち、各施設や団体の参加人数、規模を広げることが目標としています。

親子目線で、現代求められている保育の中でのイベントの在り方を追求し、多くの後援、協力を得て、充実したコンサート内容を確立。また“団体力”の底上げのため、人材育成はもちろんの事、団体の特色を広く大田区へ周知する活動も広がっていきます。



本格打楽器体験！

プロが演奏した楽器をみんなもさわってみよう。みんなも上手に鳴らせたね！

団体名 **NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあと**

会員数 **11 人** **設立** **平成 25 年 4 月**

団体の活動目的
活動実績

「子供たちにもっと生の音楽を」をモットーに東京芸大卒の池野ひとみを中心に結成。コンサートに出掛けにくい方たち向けに（乳幼児、その保護者、障害者施設、高齢者施設、乳児院など）本格打楽器を出張し、参加型コンサートを開催する。ただ聴くだけでなく、見て、触って、一緒に合奏したりと、気軽に本格コンサートを体験してもらうためワンコインコンサート中心に活動。これまでにのべ 500 か所、5 万人に音楽を届けてきた。

地域で愛されるカフェを目指して

事業名 オレンジ茶房「縁（えにし）」

助成額 17 万円

◆地域での課題

認知症が大きな社会問題となる中、「認知症当事者またはその家族等が気軽に立ち寄れる場を提供する」という基本コンセプトのもと、原則毎月 1 回カフェを開催しています。



◆基金事業概要と達成した成果

参加対象者に特に制限はなく、老若男女誰でも参加可能です。認知症当事者の方やそのご家族、関係者、または関心のある一般区民の方に参加していただいています。

毎回各種イベントを開催して、主に新井宿地域での宣伝活動に力を入れた結果、認知度はかなり高まっていると感じています。

【「認知症予防体操」について説明するボランティアの方】

この後参加者全員で体操に挑戦しましたが、意外と難しく、皆さん四苦八苦されていました。

◆これからの取り組み

今後の課題としては、

- ①認知症当事者の方の参加をさらに増やしてゆきたい
- ②イベントの時間をなるべく抑えて、利用者様同士の交流を深める工夫をする等が考えられます。



【カフェのスタッフ】

こんなメンバーでやっていますので、宜しくお願い致します！

団体名 オレンジ茶房「縁（えにし）」

会員数 12 人 設立 平成 29 年 5 月

団体の活動目的
活動実績 認知症カフェの運営

「出産おめでとう」のあとに出来ること

事業名 出産後早期に孤立しない・孤立させない育児の啓発

助成額 29 万円

◆地域での課題

【産後すぐに起こりうる「孤立」！？】

意外かもしれませんが、産後すぐの時期は本当に欲しい支援が得られないもの。「産後がこんなに大変だと思わなかった！」という声も多く聞かれます。実は、思うように出かけることもできない産後は、家の中で「孤立」しがちなのです。



◆基金事業概要と達成した成果

【「まちと子育て」のきっかけに！】

- ・赤ちゃんタッチには、レポート参加の方や、「近くにこんな場所があったんだ！」と喜んでくれる方がいます。
- ・区の子育て広場の方など、子育て支援に興味がある方が、見学にくることも。
- ・「赤ちゃんタッチ」など親子の過ごす場所を提供してくださる方がいたり、地域の子育て環境を熟知している方々とつながるきっかけになっています。

わいわいフェスタ 2017 にて

子育ての木。子育て中の方に「あったらいいな！」と思うモノ、コトを書いてもらいました。

タイムマシンで子育てが間違っていないか知りたい

子育て支援券のような、産後ケアを支援してくれるサービス

いいパパ友

人手

自由時間・ゆっくりする時間

◆これからの取り組み

【 #妊婦さんつながりたい 】

妊婦さんと接する機会がある方の協力を募ります。

地域ぐるみで「産後の備え」が必要です。なぜなら・・・

★生まれる前の特徴

- ご近所付き合いがない
- ママ友やパパ友がない
- 赤ちゃんと過ごす場所、ちょっとした困りごとを話せる人と、つながりがない
- 働いていて、地域の昼の顔を知らない
- そもそも産後のイメージがわいていない



赤ちゃんタッチにて タッチケア後の育児相談の様子
赤ちゃんととの生活で、ささいな悩みを気軽に聞ける場所です。必要に応じて助産師がアドバイス。体重測定も。

団体名 おおた まちと子育て はぐ組

会員数 6 人 設立 平成 29 年 4 月

団体の活動目的 産前産後の専門職である助産師と、地域をよく知る介護の専門家、子育て経験者が協働しています。出産直後から孤立させない、ダブルケアになっても安心して過ごせるまちづくりに挑戦しています。現在、第三木曜日に、本羽田で赤ちゃんタッチと育児相談を行っています。

うのき水辺の楽校・多摩川はおもしろい！

事業名

多摩川の自然と遊ぼう！自然から学ぼう！

助成額

24 万円

◆地域での課題

身近にある多摩川は多くの人々の願いや関係機関の努力により水質が改善され、多くの生き物・自然が戻ってきました。しかし、昔川で遊んでいたところの経験が途切れてしまい、子供たちが安全に川で遊ぶことが難しくなっています。安全に川で遊ぶことの楽しさや水辺の動植物に対する関心を高め、学び、さらに環境を良くしていくことの大切さを、子供たち、保護者、地域の人々と共に考え、活動することが地域理解につながると考えます。

◆基金事業概要と達成した成果

- ①どの回も多くの親子の参加があり、多摩川の魅力的な自然と触れあいました。本会の活動への参加を契機に多摩川や河川敷で遊ぶ親子が増え、水辺・自然環境に興味を持ち、関わろうとする子供たちが増加しています。当会が、大田区で「自然共生(生物多様性)社会」を学ぶ拠点の一つとなっています。
- ②町会掲示板に貼っているポスターは、地域の方々が興味を持っていただきました。事務局の仕事のお手伝いの申し出もあります。
- ③助成金の受給により、経験豊かな講師陣を迎えより充実した内容で実施ができました。
- ④毎回参加する小学生子供スタッフと中学生ボランティアが、イベントの準備や低学年への指導を楽しみに参加し、自然に対する視野も広がっています。
- ⑤購入した「うのき水辺の楽校」名が入ったビブスのぼり旗は、参加者が一目でわかり、安全面でとても役立っています。

◆これからの取り組み

- ①中・下流域の「水辺の楽校」で生き物調べを行い、子供同士の交流を図ります。
- ②子供たちの声と、専門家の協力を得ながら多摩川の生き物図鑑を作成し、地域・小学校での生き物観察に役立てます。
- ③地域に在住する専門家からの助言を受け、活動内容の充実を図ります。
- ④地域の青少年を、スタッフとして育成します。

4 月 29 日 (土) 多摩川・春の野鳥と植物



シジュウカラ、キビタキの野鳥だけでなく野草や大きなダンゴムシ、木の看板の裏にいたヤモリまでいろいろ発見しました。たくさんの春を感じました。

6 月 10 日 (土) 多摩川の河口干潟の生き物を調べよう



大師河原のアシ原や石の下、泥の中には、エビ・カニ 8 種、魚 6 種、クラゲ、フナムシなど採集し、野鳥も含めて干潟には驚くほどのたくさんの生き物がいました。

6 月 24 日 (土)・7 月 8 日 (土)・8 月 19 日 (土) ガサガサ体験



嶺町小前の多摩川にはたくさんの親子が集まり、ヌマチチブ、テナガエビ、水生昆虫を採集しました。今年はずらしいウナギやカワアナゴも採れました。

11 月 18 日 (土) 多摩川で渡り鳥に会おう



ユリカモメ、オオバンなどの秋に渡ってきたたくさんの水鳥に出会いました。それを狙って突然現れたチョウゲンボウにみんな目を奪われました。

2 月 17 日 (土) 春の気配を探そう！(予定)

2 月 25 日 (日) 多摩川水辺の楽校シンポジウム(予定)

※9月23日「中流に行こう」、10月7日「昆虫さがし」、10月29日「丸子の渡し祭り」は、悪天候および高水位のため中止。

団体名

うのき水辺の楽校協議会

会員数

29 人

設立

平成 25 年 8 月

団体の活動目的
活動実績

大田区鶴の木地区の多摩川沿岸で活動している団体と町会、大田区関係機関、国交省などの河川管理者が連携し、子供たちの自然体験や交流を通して、多摩川における良好な水辺環境づくりや自主的・主体的な環境教育を行うことを目的としている。具体的には、生き物調査（ガサガサ体験）、野鳥や植物・昆虫観察などの体験活動を安全面に留意しながら行っている。

ささえあいのあるまち『おおた』を区民の力で創る

事業名

大田区版！ささえあいの地域づくり

助成額

18 万円

◆地域での課題

誰もが自分らしく住み慣れた地域で暮らし続けるための地域の仕組みが「地域包括ケアシステム」。このシステムが大田区で充実したものになるのに必要な要因として、区民ボランティアの育成をはじめとした、地域福祉に参画する区民づくりだと考えています。



◆基金事業概要と達成した成果

地域包括ケアを可能にするボランティアの掘り起こしを行い、今ある資源をつなぎ、専門職による介護福祉の基礎知識を学ぶ講座や、ボランティア受け入れ団体とボランティア自身の得意分野や力を伸ばす地域の念とワークにおけるマッチングを行えるようにします。現在、大田区社会福祉協議会との協働で「ボランティア入門講座」を実施中です。



ボランティアの魅力を知ろう ～ボランティア入門講座～

1 2 月 6 日大田社会福祉協議会との協働で開催しました。介護事業所やシニアステーションでの活動を紹介しました。

◆これからの取り組み

区民活動団体と、社会福祉協議会との協働をより強化して、ボランティアの入り口を区民により見えやすくさせ、ボランティア人口の拡大をめざします。医療・福祉・介護の専門家や、行政、区民活動団体との協働・協力をすすめ、大田区型の地域包括ケアシステムを大田区一丸となって創っていく機運を高めていきます。

コミュニティスペースをつくろう！

2 月 14 日には、地域にいろいろな居場所が欲しい、ならばみんなで作ってしまおう！！というテーマで、ボランティア入門講座を実施しました。板橋区での実践例などをお聞きしながら、大田区での居場所づくりを考えました。

団体名

おおた地域包括ケアシステムをすすめる会

会員数

60 人

設立

平成 28 年 7 月

団体の活動目的
活動実績

地域包括ケアシステムが大田区に創り出される機会に、区民活動団体も共に包括的に互いにケアできる地域になるために活動しようと集まりました。地域の医療・福祉の専門家と学び合いながら、専門家だけに任せるのではなく、行政と結び合い、主体的に関わり、ともに気持ちよく住み続けられる地域を築きたいと考え、住民、市民が参加できる機会と場を設け、各団体のネットワークが連携協働する仕組みづくりを創り出すための活動をしています。

学び・行動・誰もが輝く「お互い様」社会づくり

事業名

地域おしゃべり講座（地域出前）事業

助成額

24 万円

◆地域での課題

超高齢社会に突入し、地域でも高齢化問題をはじめ多くの課題が浮き彫りになっています。しかし、地域包括ケアにしても認知症にしても、苦しんでいる方がいる一方でそうでない人は無関心です。これでは課題は解決できません。人と人がつながり助け合い・支え合って「お互い様」社会をつくる。そのために「人が集まり・話し合っ」て解決する「学び」を提供しています。

◆基金事業概要と達成した成果

私たち団体は、この地域コミュニティ活性化活動を始めて 4 年目です。気楽に参加できる区内循環型出前講座形式をとっているので参加者の数はまだ多くありませんが、地域の多くの団体と知り合い助けていただくと共に地域住民の方にも活動に参加していただき応援していただいています。「楽しい学び」も少しずつ定着してきている感じがしています。

今回初めて「子育て」関連にも挑戦します。児童虐待やいじめ、子どもの貧困等多くの課題が提起されていますが、地域での関わりが難しく避けているところがありますが、子育ては地域課題でもあります。

◆これからの取り組み

第 2 回は写真で報告しました。第 3 回は 12 月 9 日に六郷地域力推進センターで「地域での住民同士の支え合い」についての講座を開催しました。第 4 回は 2 月 3 日に羽田・糀谷地域対象に「地域総がかりの子育て」について開催しました。「地域おしゃべり講座」はまだ定着していないので、平成 30 年度からステップアップ助成をいただき、「学び」と「実践（行動）」を一体化し、超高齢社会の中での区民の役割・生き方として、多くの「元気高齢者」の参加を促進し、地域課題の解決に取り組みたいです。



第 1 回大森地区「みんなで支え合う“まち”づくり」講座風景
上の写真「介護保険が大きく変わる話と介護現場の実態」を専門家から聴いた。次に中の写真、地域組織作りの第一人者から「お互い様」社会づくりの極意を教えていただいた。横の写真は「お互い様」社会づくりの難しさを熱心に訴える参加者



第 2 回雪谷地区「地域おしゃべり講座」風景
上の写真盛況の講座全体風景。中の写真「語り部」のみなさん。
下の写真「熱心に語り部」による地域の話聞く参加者

団体名

おおた生涯学習世話人会

会員数

26 人

設立

平成 25 年 5 月

団体の活動目的
活動実績

この団体は生涯学習人材育成講座修了生を主な構成員とした団体で、活動目的は大田区民への生涯学習の啓発・普及です。会員の多くは生涯学習リーダーとして区の事業にも参画しています。その経験を活かし、当会では自主事業として生涯学習を身近に感じていただくために「出前講座」を実施してきました。

大田区来訪外国人ガイド

事業名

大田区来訪者外国人対応ボランティアガイド

助成額

24 万円

◆地域での課題

羽田空港を経由して来訪した年間 1 千 2 百万人以上の外国人および日本に在住している外国人、ともに大田区を通過点と見ています。海外の方々が大田区と一緒に歩いて日本の文化を一緒に発見し観光目的として訪れる人を増やします。

◆基金事業概要と達成した成果

- ① 池上本門寺、穴守稲荷、羽田空港、大田市場等と連携したガイドを継続実施しました。
- ② 東京工大、サクラハウス、立正大学留学生等から継続的に参加するリピーターが増えました。
- ③ 日本文化体験（書道、折紙、着付、風呂敷等）を実施しました。
- ④ Facebook により 1 回/月、大田区ガイド案内を実施しました。
- ⑤ 参加者は 294 名、32 ヶ国となりました。

◆これからの取り組み

- ① 訪日外国人が満足するガイドコースと日本文化体験を再検討し、魅力あるガイドをします。
- ② 2020 年オリンピック開催時への体制作りを継続的に行います。

ガイドグループマークおよびガイド状況



マーク



町めぐり



本門寺盆踊り



クロスミントン案内



羽田空港案内



甲冑パレード

主なガイド実施例

日程	内容	実施場所
4 月	本門寺春まつり	本門寺
4 月	蒲田町めぐり	蒲田地区
5 月	紫陽花・日本文化体験	池上梅園
7 月	羽田例大祭	羽田
8 月	みたま祭り・盆踊り	本門寺
9 月	クロスミントン案内	大森
10 月	御会式	本門寺
12 月	梅園・日本文化体験	池上梅園
1 月	梯子乗り	本門寺
2 月	武蔵新田甲冑パレード	武蔵新田
月例案内	羽田国際線ターミナル	羽田空港

団体名

大田区外国語ボランティアガイドグループ

会員数

53 人

設立

平成 28 年 8 月

団体の
活動目的
活動実績

外国人観光客および在住外国人に観光地化されていない大田区内の町および各施設をガイドし、日本文化を体験してもらい大田区及び日本の本当の良さを知ってもらうことを目的としている。

メディアでの PR : J-com「クロスミントン」「御会式」、NHK ラジオ第一「ゆく年くる年」

参加者 : 294 名、国数 : 32 カ国、米国、中国、英国、豪州他、(平成 29 年 12 月 31 日現在)

ポールdeウォークで地域が元気に！

事業名

高齢者の介護予防・仲間づくりのためのポールウォーク
学校の全区的展開

助成額

249万円

◆地域での課題

超高齢社会を迎え、シニアがいつまでも社会の主役であるための近道は、常に外出を好み、友達と会い、趣味や食事を共にすることです。ポールdeウォークの更なる普及と、シニアがシニアを教え、共に学ぶために、区内各地域に身近なリーダーが必要です。

◆基金事業概要と達成した成果

区の公募したポールdeウォーク教室修了者の自主継続と新たな仲間を増やすための大田区ポールdeウォーク楽校を上半期5校、下半期12校開設し、大田区のまちかどのスポーツとしての定着を図りました。また、健康・介護関係事業所等のスタッフ対象のリーダー養成研修会を六郷と嶺町の2か所で開催し、地域バランスを考慮した指導者育成を図り、区内各地で体験会などを行いました。



ポールを持って歩くと楽しい！

サッカーにボール、野球にボールとバットがあるように、ポールdeウォークには2本ポールがあるから歩くことが楽しいのです。

◆これからの取り組み

今後大田区全区的な展開を図るうえで区内の18の特別出張所管内に大田区ポールdeウォーク楽校を開設し、これまで研修を修了した指導者に積極的な参加を呼びかけるとともに、健康、防犯、防災をテーマに区民がいつでもどこでも二本のポールに気軽に触れられ、歩けるように取り組めます。



区内各地の仲間とともに 老若男女はもとより、障害のある方と健常者が一緒に楽しめるユニバーサルスポーツの主役はポールdeウォークです。さあ、あなたもふるってお仲間！

団体名

一般社団法人木谷ウォーキング研究所

会員数

650人

設立

平成24年1月

団体の活動目的
活動実績

「いつでも どこでも 誰でもできるみんなのスポーツ」ウォーキングを、年齢や体力に応じて誰もがいつまでも楽しめることを目的に6年前に発足しました。各地で研究会やシンポジウム、講演会、伊能忠敬になってみよう！星と地球楽校、ユニバーサルウォーキング等を開催してきました。

地域と在住外国人をつなぎ多文化共生を推進

事業名 ネットワーク型おもてなしプロジェクト

助成額 148 万円

◆地域での課題

町会・自治会などの地縁団体から外国人の日本文化の教育（ごみの分別、騒音、防災等）のニーズがあり、また商工業や一般区民からも外国人との交流を望む声があります。さらに地域包括ケアシステムの構築の観点からもネットワーク型団体の誕生、活発化が望まれている現状です。



【東六郷一丁目町会夏祭り 平成 29 年 7 月 29 日】

EDO 会の紹介で 5 人の外国人留学生参加し交流

◆基金事業概要と達成した成果

留学生を多文化共生に理解のある団体（町会、商店街、神社など）につなぎ、防災訓練、お祭りイベントなどに参加し、相互に理解、交流することができました。EDO 会を留学生に訪問してもらい、EDO 会メンバーとのサロンを開催し、互いの人、国の文化、経済、生活、考え方などを理解しあえることができました。またこの交流により共生の意義の理解も相互に深まることが期待されます。



【外国人交流サロン】

香港生まれ羅さんと英語で交流

EDO 会事務所にビジットしていただく。

◆これからの取り組み

多文化共生に理解ある団体（町会、商店街、神社、企業など）の関連者や一般区民にホストファミリーになっていただくなどで多文化共生への理解を深める区民を増やすことを目標にします。事前に各種団体に呼び掛け、ネットワーク型ホームステイ/ビジットによる多文化共生の推進の効果を説明するとともに、その団体のニーズにも貢献できることを説明し、理解を得て、計画的な実施と改善の活動ができるよう働きかけを行っていくことを目標にします。



【東六郷一丁目町会防災訓練】

外国人留学生 9 名と町会をつなぎ、防災訓練と懇親会が行われました。

団体名 英会話同好会 from OTA(EDO 会)

会員数 1000 人 設立 平成 26 年 11 月

団体の活動目的 活動実績

英会話同好会 from OTA は、社会事業の英会話サロンと団体、法人向けの講師派遣を含む英会話教室の活動により、英会話学習を支援し、英会話の再学習や、仲間づくりの場を提供します。さらに①拡大の傾向にある多文化共生社会で、他国の人々の考え方、感じ方を理解し、多文化共生の一翼を担うことを目指します。②地域のハブ、つなぎ役として、地域力の構成員のつながりを作り、結果として地域の問題解決のかけ取り役を果たします。

地域をもっと楽しく、もっと住みやすく

事業名 地域ボランティア隊の創設

助成額

53 万円

◆地域での課題

地域の最大の課題は「住民同士の結びつきの希薄化」と捉えています。そのため地域住民のさまざまな要望に応えることのできる仕組み作りを考え、乳幼児から高齢者まで、さまざまな年代に合わせた形のイベントとそれを支えるボランティア隊の創設をめざしています。

◆基金事業概要と達成した成果

こどもサクラまつり（4月）こどもハロウィンまつり（10月）、ボランティア研修（9月）、高齢者施設見学会、まち工場見学会、ミニ四駆づくりと走行会（それぞれ3月）などを開催しながら「小中高生を含めた形での地域ボランティア隊」の創設をめざしています。地域内の高校やまち工場、金融機関など、多様な団体との連携が進んできました。



まちのボランティア隊づくり初心者交流会（Luz 大森）

安全で暮らしやすく楽しいまちづくりをめざして、ボランティア養成講座を開催しました。講師は学習院の長沼教授。

◆これからの取り組み

地域の乳幼児から高齢者までを対象にした活動を「地域まるごとケア」という用語で表現しています。今年の6月には地域内の高齢・介護系事業所（37ヶ所）に呼びかけて「シニア元気まつり」、8月には20以上のまち工場と連携して「オープンファクトリー」などの準備が始まっています。



おおもりのこどもハロウィンまつり（こらぼ体育館）

大森地域で活躍する区民活動団体や企業、まち工場、高齢者団体、高校などの協力を得ながらのハロウィンイベントです。写真は、当日参加したボランティアスタッフです。

団体名 おおもりのまちづくり協議会

会員数 20 団体

設立

平成 25 年 10 月

団体の活動目的
活動実績

大森地域住民の「出会いの場づくり」を年代別のイベントに分けて開催しながら、結びつきの広がりとそれを支えるボランティアの育成を最大の目的にしています。居場所となる「地域集会室さわだ」を運営しながら、地域団体の創設および活性化にも取り組みながら、高校、まち工場、商店街、金融機関や地縁団体との連携・協働を進めています。

地域の魅力を発信するネットワーク

事業名 まちごと体験ミュージアム

助成額 72 万円

◆地域での課題

当館では来館者に周辺の見学地を案内したり、情報誌、新聞等が当館と周辺の見どころを併せて取材する機会が多いです。一方で、下丸子、久が原、洗足、田園調布等北部地区の紹介やまち歩きツアーなどが少ないのが現状です。地域では、当館をはじめとして、すでに、企業、団体、個人によるツアーの受入体制もあるものの、マッチングができていません。

◆基金事業概要と達成した成果

2 年目の事業内容は、歩いて巡るツアーに加えて、以前から地域の団体より強い要望のある広域ツアーの試行、継続的に地域に訪れてもらう仕掛けのある地域のマップ作りです。地域住民が地域について学ぶ勉強会を立上げ、この活動によって、これまで連携が難しかった個人、団体、施設のネットワークや体制ができ、早速に外部からの、この地域のツアー希望に応じました。これまであまり発信されてこなかった大田区の北部地域の魅力について、不特定多数の方に知っていただくことができました。

◆これからの取り組み

本事業によって立ち上げた、地域住民を中心とした勉強会「大田遺産の会」が活動の主体となり、商店会や町内会など他団体と協働していくことを計画しています。助成期間中に構築された地域でのネットワークを発展させ、マップや参加団体であることがわかる掲示物（ステッカー等）の普及により連携を目に見えるかたちにし、地域を巡りたい個人や団体が自主的にまち歩きができる体制を整えます。



2 年目は、勉強会「大田遺産の会」の活動に重点をおきました。地域の歴史や見どころについて、地域住民の方や専門家にお話を聞く公開勉強会を開催し、地域で活動する個人や団体、専門家、見どころとなる古建築を所有されている個人等の交流の場となりました。

2 月と3 月には、勉強会で学んだ地域の魅力を伝え、体験していただくツアーを開催しました。ガイドの会や地域住民、団体との連携、協力によって計画できました。

(写真) 左上：4 月 28 日池上梅園清月庵・聴雨庵での公開勉強会 右上：9 月 16 日「聞きたい知りたい地元・大田区の文化財のこと」チラシ 左下：同公開勉強会の様子。大田区立郷土博物館学芸員の講座 右下：10 月 24 日地元の建築写真家による報告会

団体名 昭和のくらし博物館

会員数 18 人 設立 平成 11 年 2 月

団体の活動目的
活動実績

昭和のくらし博物館は登録有形文化財建造物小泉家住宅、及び、この住宅が有する歴史的、文化的価値をふまえ、昭和時代の庶民のくらしを学び、生活史資料を保存することを目的とした団体です。主な活動実績は、昭和のくらしに関する実物資料を収集、保管、調査研究、展示、これらの資料に関する解説書、図録などを刊行すること、講演会、見学会、研究会などを開催すること、また、昭和のくらしに関する資料提供、指導を行うこと、博物館など学術、または、文化に関する活動と相互協力を行うことを、広く地域社会の人々に対して行っていることです。

おおもりの地域に根差した子どもと家族への応援

事業名

大森地域の子ども居場所づくりと学習教室の開設 & 子育て家族の応援

助成額

168万円

◆地域での課題

- ・ 「家族のきずなづくり」の強化
- ・ 「子どもたちの遊び場」の減少
- ・ 小学生の学習習慣と生きる力の確立
- ・ 子育て家族の貧困化・孤立化
→地域内で（世代）交流がないこと
- ・ 中学生の学習困難が増加



◆基金事業概要と達成した成果

2年目に入った学習支援教室いるか、地域から応募してきた高校生・大学生13名が22名の小学生の学習支援を毎週土曜日に開催。昨年に引き続き、地域の多世代交流や家族のきずなづくりの場としてさまざまなイベントを企画・開催。各種行事に親御さんの参加、協力が増えたのが大きな成果です。

その中で新たな要望、悩みもみえてきました。地域内小学校等からは「どんな子どもでも（発達障害児など）も受け入れてくれる場所」として認知されているようです。2年間の活動の中で、このような場所、取り組みが必要とされているという自信をもつことができました。

地域の方によるコロク教室。まちで会ったときに、「〇〇さんこんにちは」と講師の方から嬉しい報告も！



◆これからの取り組み

子どもの学習支援は、普段過ごす家族のきずなづくりや生活応援と表裏一体の取り組みなのだ、日々感じています。とにかく継続し、利用してくれている子ども達、まだ来ぬ子ども達、家族のために居場所を作っていきます。

中学生向け学習支援も検討しています。課題は活動を続けていると次から次へと出てきます。保護者をさらに巻き込みながら、地域の方との交流の機会も大切に持ち、今あるベースをもとに活動をさらに発展させていこうと考えています。

認知症サポーター養成講座。保護者の参加もあり、施設見学もさせていただき、学びの多い講座でした。



区のイベントに出店。親御さんも知らなかった子ども達の大胆さにも出会い、成長がわかる特別な日でした。

団体名

おおもり子育て応援隊

会員数

21名

設立

平成25年3月

団体の活動目的
活動実績

【活動目的】大森地域の子どもと家族の支援。

【活動実績】こらぼ体育館を会場に「おおもり・おやこまつり」を開催。こらぼ体育館を会場に「おおもり・まちづくりフェスタ」に出展。地域の公園を会場に「家族そろってカレーパーティー」を開催。キッズな大森を会場に「夏休み連続学習教室」を開催。H28. 4～学習支援教室いるか開講。

ユニバーサルなまち 新井宿へようこそ！

事業名

おおたユニバーサルワークショップ
～地域文化 d e ふれあいづくり～

助成額

93 万円

◆地域での課題

文化・福祉・医療・行政等、多くの施設を有するハードのポテンシャルが高い新井宿地区ですが、地域の NPO と地縁活動団体とが連携・協働して、地域住民がつながり互いに支え合う、誰もが安心して快適に、文化的に過ごせる「ユニバーサルなまち 新井宿」を推進する事業が必要であると思います。



◆基金事業概要と達成した成果

新井宿地区の自治会、町会、青少年対、民児協などの地縁団体や特別出張所、さぼーとぴあと連携・協働して、大田区の地域文化といえる、モノづくり、伝統工芸、文化・芸術の各分野で活躍する講師によるワークショップを実施。地域住民や来訪の講座参加者とともにふれあい交流することによって、「ユニバーサルなまち 新井宿」を発信し、住民の地域力を推進しました。



◆これからの取り組み

平成 28,29 年度において、ワークショップを通して、「ユニバーサルなまち 新井宿」を内外に発信し、地域住民及び地域外の人々に、つながり互いに支え合う、誰もが安心して快適に、文化的に過ごせる「ユニバーサルなまち 新井宿」を発信してきました。来年度も引き続き「新井宿地域の魅力を発信」する事業を継続実施したいと思います。

上：講師・町田久美子さんの指導で友禅染を体験中！

中：万華鏡を制作中のちびっ子さんと指導する講師

下：日本画家・高頭信子さんの指導で墨絵を体験中

3 月 25 日開催のワークショップはフラワーアーティスト・川崎景太氏の講演、花をいける実演、ワークショップとともに、花にまつわる音楽演奏も加わり、五感で楽しむ企画です。



団体名

特定非営利活動法人 大森まちづくりカフェ

会員数

80 人

設立

平成 16 年 4 月

団体の活動目的
活動実績

私たちは、大森を中心とした地域において、地域のさまざまな「魅力」を、保全、発見、創造し、それらに関する情報の発信、交流・学習の場の創造、活動・事業の支援などを通じて、地域のよりよい生活文化、生活空間の創造と、地域の活性化に寄与することを目的とする NPO 法人です。地域の魅力を創造するイベント開催、情報紙「大森まちづくりカフェ」の発行を実施しています。

“街に福を呼ぶ”多摩川七福神『縁日』

事業名

多摩川七福神『縁日』を活かした
地域産業とのコラボレーション

助成額

97 万円

◆地域での課題

売上げ不振、後継者の問題等で閉店・廃業に追い込まれる店舗が増えている商店街。しかし、根本には商店街の利用者が減少していることが課題です。高齢化は、この地域も進んでおり、お年寄りや近隣にお住まいの方々が、日常的に利用しやすい仕組みや、安心できる安全なまちづくりも急務となっています。



◆基金事業概要と達成した成果

地域産業の変化や新しい住民の流入によって、見えなくなっている地域を「見える化」するのが本事業『縁日』です。『縁日』の実施は、人々が集い地域が見えてくるだけでなく、来街者を増やし、新しい活性化を生む起爆剤となります。更に、縁日によって地域連携が生まれ、企業の協力や地域団体の協力が得られるようになります。



【成果】

・近隣老人ホームからお年寄りが来場 ・区外からの「多摩川七福神巡り」に参加者増加 ・東急グループの広報活動協力 ・多摩川まるしえの縁日出店 など

多摩川七福神『縁日』風景

縁日（模擬店、大道芸、あおぞら市、スペシャルイベント）は徐々に定着しつつあり、来場者も増えている。

◆これからの取り組み

商店街の日常営業の売上に結びつけるために、地域産業（町工場）とのコラボレーションを行います。具体的には『縁日』の“ものづくり市”への出店参加を促し、昔のように町工場と商店街の距離を縮め、気軽に商店街を利用してもらうベースをつくります。また、商店街でも町工場の製品を販売出来るようにして行きます。縁日の“ものづくり市”が、“世田谷のぼろ市”のような存在になることを願っています。



多摩川七福神巡り〈正月〉

正月（元日～4日、8日）に行った「多摩川七福神巡り」参拝者の接待。1,000人以上の人が訪れた。

団体名

多摩川七福神実行委員会

会員数

17 人

設立

平成 25 年 1 月

団体の
活動目的
活動実績

「多摩川七福神」の設置を基軸に、地域の持続的な発展を目指し矢口地域や隣接する地域に居住する人々が協働と連携を図り、有形・無形の資源を活用して地域活性化を行うことを目的としています。

【実績】 ・武蔵新田商店会と共催で多摩川七福神『縁日』を矢口地域のシンボルイベントにした。

・1 大田・品川まちめぐりガイドの会の協力により七福神巡り（ガイド付き）ツアーを実施。 他

コミュニティカフェで元気に楽しく！

事業名

蒲田で実践！地域包括ケアシステム。
コミュニティカフェで元気に楽しく！

助成額

51 万円

◆地域での課題

地域包括ケアシステムで地域住民主体の互助の構築が必要です。地域のコミュニティ（助け合いの関係）は薄く、地域特性に合わせた地域ボランティアの発掘・育成を行い、誰でも気軽に立ち寄ることが出来る集いの場、介護予防活動、健康増進活動を行うコミュニティカフェが必要だと考えます。



10月15日(日) 楽しくて気持ちよい！武道体操 大内巖児さん

12月17日(日) 部屋を飛び出し、ポールウォーキングで町をみんなで歩く 野村幸太郎さん

◆基金事業概要と達成した成果

毎月第3日曜日に健康体操とおしゃべりのできるコミュニティサロンを開催。これまでわたしたちが開発してきた冊子「安心のーと」「みんなで作る地域包括ケア」を活用し、毎月地域の講師とともに10名程度の地域の中高齢者が集ってきました。地域でサロンを開催したい人や自分の地域で活動を応用したい人なども集い、おしゃべりも活発に行われ地域の集いの場として機能しています。



おしゃべりが楽しいですね！

◆これからの取り組み

来年度からは300円の参加費をいただきながら、常連としてコミュニティカフェに参加していただいている方々の集まる場として機能していきます。今後地域包括ケアシステムに求められる地域活動を高齢者、障がい者、こどもの集いの場も含め模索します。



11月19日(日) 身体も気持ちもすっきり！ 宮川幸代さん



団体名

NPO 法人 福祉コミュニティ大田

会員数

58人

設立

平成11年10月

団体の活動目的
活動実績

さまざまな地域住民の知恵と力を合わせ、福祉に関する事業を行い、環境に配慮しながら、健やかに安全で快適な差別のない生活の場を地域に創造することを目的とします。介護保険事業、障がい福祉サービス、地域ネットワークづくり・政策提言、助け合い・地域福祉の講座企画など全事業を非営利の活動と位置づけて行っています。2000年の8月通所介護事業所(都指定)開業。ぷれいるーむ活動、産直市開催、助け合いを地域活動事業として運営。2003年大田NPO活動団体交流会設立。2006年都指定訪問介護・居宅介護支援事業開業。2007年WAM福祉基金助成により地域活性化プロジェクト「緑水ひと」事業展開。介護保険・認知症予防出前講座を区内各地で開催。「安心のーと」を開発し、地域の安心を創る事業を展開。2009年大田区通所介護事業者連絡会設立(2013年まで会長)。2011年おおた区民活動団体連絡会設立(共同代表)。ステップアップ助成金事業2012-13年活動。2013年障害者相談支援事業開業。2016年度ステップアップ助成金により2015年9月より毎月開催しているコミュニティカフェ、地域包括ケアシステム冊子作成などを行う。

命を第一に考える防災活動

事業名 「防災セミナー」「宿泊型避難所疑似体験防災研修」

助成額 76 万円

◆地域での課題

大田区では首都直下型地震での被害予想として、3 万件を超える火災と 1 千人を超える死者が発生すると想定されています。縁プロジェクトでは、東日本大震災以降の災害支援ボランティアの経験を通じて得た技術を活かして、大田区民に災害時のスキルを広め、大田区を災害に強い区にしていこうと、地域力応援基金助成事業に申請しました。



自治会での出前防災セミナー
課題を解いて、みんなで話し合うことが大切

少人数の出前防災セミナー
最低 3 名 集まれば、セミナーやります



◆基金事業概要と達成した成果

【防災セミナー】・・・災害に立ち向かう前線基地となる学校避難所を運営する自治会町会に対する防災セミナーでは、どの地域でも避難所の開設と運営の手順にばかり気を取られていて、肝心の“命を守り、皆と協力して災害に立ち向かう”という視点が欠けてしまっていたように見受けられましたが、我々のセミナーに参加して、あらためてそれぞれ我が町の防災について新しい視点で捉え、考え、行動に移すきっかけになったと思われます。

【避難所研修】・・・実際に学校を避難所に見立て、児童生徒に宿泊を体験してもらう避難所研修では、子どもたちに疑似体験してもらうことにより、防災について考えるきっかけを作り、併せて学校関係者、PTA、自治会町会などの組織と連携することにより、大人の皆さんにも子どもたちの存在を認識させることができました。それによって一緒に防災に立ち向かうという姿勢が現れ、とてもよい協働関係が構築されるきっかけが作れたと思われます。



避難所運営ゲーム
避難所運営の疑似体験



学校で停電になった時の疑似体験
灯りを囲んでミーティング

◆これからの取り組み

“防災”といえば、縁プロジェクト、という認知が大田区内で広がりました。

私たちには、防災活動に関するノウハウがこの数年間でたくさん蓄積され、防災セミナーの運営については、ほぼ問題なく実行できていると考えていますが、いかにせん問題は、事前事後の事務処理が滞ることにあると考えています。

運営と事務方の両方のスタッフの充実がとても重要だと考えています。そのためには、後継者を育成することが大切だと痛感しています。



被災地から人を呼んで防災講話
経験者から生の声が聞けます



防災講話とクロスロードゲームをセット
にしてセミナーをおこないました



←テレビ局の取材が入ることもあります

団体名 縁プロジェクト (えにしぷろじえくと)

会員数 30 人 設立 平成 24 年 1 月

団体の活動目的
活動実績

縁プロジェクトは、災害ボランティア団体として、緊急・継続支援および防災・減災活動を行い、被災された方々の自立を助けることを目的とするために、大田区内では防災減災活動を実践し、災害に遭った被災地では真剣な支援ボランティアを行っている。

地域の誰もがスポーツを楽しめます！

事業名 スポーツを通じて地域の多様性を創出する事業

助成額 39 万円

◆地域での課題

当団体の活動に参加している会員（障害者）、支援者（健常者）から「日常生活に関する問い合わせをどこにしていかわからない」「初心者が気軽に参加できるスポーツサークルがない・障害者と知り合う機会がない」等の相談を受けることが非常に多く、地域の課題として認識するに至りました。



わくわく健康体操実施中！

タオルを使ったトレーニングを実施中です。
意外と難しいかも・・・

◆基金事業概要と達成した成果

・事業概要

- ①わくわく健康体操 12 回
- ②初心者スポーツ教室（バドミントン・ポッチャ）計 19 回
- ③わくわくスポーツ大会（ポッチャ）1 回

・成果

- ①昨年度以上に地域の多様な人が本事業に参加するようになりました。
（特に小・中・高校生、大学生の参加が増えました。）
- ②他団体との協働・お互いの活動の支援の機会が増えました。



初心者スポーツ教室（ポッチャ）実施中！

この時は珍しく個人戦をやっています。
ガチで真剣勝負中です。

◆これからの取り組み

健康体操に関しては今後メニューを音声、図（イラスト・テキスト）、映像（動画）にしてインターネット経由で配信、もしくはメディア（DVD）で配布していきます。外出に制限が出てきたり、難しくなっている会員に関しては自宅で実施してもらうように働きかけます。

団体名 大田区障害者スポーツ倶楽部

会員数 40 人 設立 平成 22 年 10 月

団体の活動目的 活動実績

活動当初は中途障害者の支援を主な目的としていましたが活動を重ね地域の様々な人が関わるようになってきており、地域の多様な人がスポーツを通じて交流ができる事を主な目的としています。年間約 30～40 回活動をしています。

六郷に中高生専用のフリースペース誕生

事業名 六郷ユースクラブ

助成額 92 万円

◆地域での課題

中高生を取り巻く環境は現在大きく変化しています。以前のように、地域や家庭、年齢の異なる仲間たち中で、さまざまな体験をしながら自分自身や社会を知っていくことが難しくなっています。そうした子どもたちと伴走すべく「中高生の居場所づくり」が地域社会に求められています。



◆基金事業概要と達成した成果

今年4月より、六郷地域力推進センターを拠点にした「六郷ユースクラブ」を開催。

まなび・交流・相談・体験活動ができる「中高生の居場所づくり」を目指して取り組みました。

居場所を求めてくる中高生たちの自己肯定感を向上させるとともに、学校以外の地域の人たちと関わりながら、関係性の豊かさや生まれ育った地域への愛着が芽吹く契機になっています。

中高生がたくさん集まっておしゃべりタイム

居場所では人狼ゲームが大人気。初めて会う者同士もゲームを通じての交流の輪が自然と生まれています。また最近では、藤井棋士の影響か？将棋をブームが到来。自ら将棋を持って遊びに来る中高生がいます。

◆これからの取り組み

魅力ある居場所にするために、学校の課外活動で手薄もしくはあまり実施されていない活動に着手。将棋や手話など、興味があるものの、(特に同世代と) どうやって始めていかわからない文化活動を定期的で開催していきます。中高生のメンバーシップと連帯を深め、地域の活動にも参加できる下地作りをさらに発展させていきます。



中高生企画の学習会も開催

毎週開催する居場所に加え、中高生が企画するイベントや学習会も定期的で開催しています。また普段の居場所スペースでは、学校の宿題や定期テスト勉強など自習室代わりに利用する中高生も多くいます。

団体名 特定非営利活動法人ユースコミュニティ

会員数 10人 設立 平成24年5月

団体の活動目的
活動実績

様々な困難を抱える子どもたち(小・中学生)に対して、地域の大人・大学生たちがボランティアで子どもの学習を指導。学力向上と進学をサポートしています。

学力格差を是正し、子どもの社会的自立を支援しています。また学習以外にも、他者との関係を育むコミュニケーションと社会性を培う活動も大切にしています。



地域力応援基金への ご寄付のお願い



様々な地域の課題解決のために活かされています！



地域力応援基金は、区民や事業者の皆様からの寄付金を積立て、区内で活動するボランティア団体やNPO、地縁団体等が実施する公益的な事業を支える新しい基金です。

1 寄付金の活用

地域力応援基金へのご寄付は、「地域力応援基金助成事業」として大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化をすすめるために活用させていただいております。基金を活用して実施した事業は区ホームページで公開しております。是非ご覧ください。

2 寄付の方法

(寄付される場合には以下の3つの方法があります)

(1) 納付書によりお近くの金融機関で振り込む

➡ 寄付申込書を下記送付先まで送付してください。後日納付書をお送りしますので金融機関窓口でお振込みください。なお、手数料はかかりません。

(2) 現金書留で郵送する

➡ 寄付申込書を同封の上、下記送付先まで送付してください。郵送料等は恐縮ですが、お客様でご負担ください。

(3) 直接現金をお持ちいただく

➡ 大田区役所6階地域力推進課にお越しください。寄付申込書はその場でご記入いただきます。

3 寄付申込書の入手方法

寄付をされる場合には寄付申込書が必要です。寄付申込書が必要な方は、大田区HPからプリントアウトするか、下記問合せ先までご連絡ください。後日郵送でお送りします。

4 寄付の流れ

(※上記2寄付の方法(1)の例)



① 寄付申込書の提出 (郵送でも FAX でも構いません)

② 納付書の送付 (到着後、金融機関で振込)

③ 振込確認後、受領書・礼状を送付いたします。

④ 区報掲載 (掲載月は不定期です。ご了承ください。)

平成 29 年度 地域力応援基金助成事業活動報告書

発行 大田区 地域力推進部 地域力推進課 区民協働・生涯学習担当

〒144-8621 大田区蒲田五丁目 13 番 14 号

TEL : 03-5744-1204 FAX : 03-5744-1518